

道徳科の評価

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P105～P114
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P107～P116

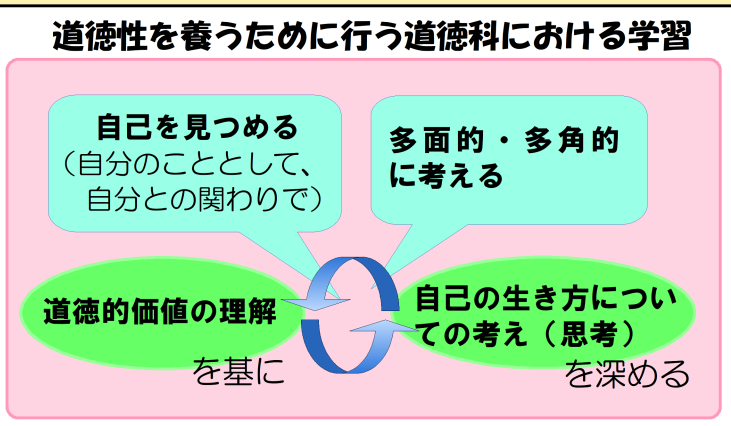
道徳科の評価は、道徳科の学習活動における児童生徒の「学習状況や道徳性に係る成長の様子」を、年間や学期といった一定の期間で見取ります。そして、他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価として、記述式で表現します。併せて、指導者自身の指導を振り返り、改めて学習指導過程や指導方法について検討し、今後の指導に生かすことが大切です。

なお、普段の学校生活で見られる行動については、これまでどおり、指導要録の上では、「行動の記録」として記載する要素となります。

道徳科における評価

道徳科における学習活動は、左図で示すとおり、道徳的価値の理解を基に、自己を見つめたり、多面的・多角的に考えたりしながら、自己の生き方についての考えを深めることです。

道徳科の評価は、そのような道徳科の学習の中で見られた児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」、「道徳的価値の理解を自分との関わりで深めているか」といった点に注目して見取り、指導要録に記述します。



道徳科の授業における児童生徒の評価の視点の例

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているかどうか
 - ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
 - ・自分と違う立場や考え、感じ方を理解しようとしている。
 - ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかどうか
 - ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
 - ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる。
 - ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
 - ・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

道徳科において、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、記述するかということについては、学校の実態や児童生徒の実態に応じて、指導者の明確な意図の下、学習指導過程や指導方法の工夫と併せて適切に考える必要があります。

道徳科の評価を行う際には、学習評価の妥当性、信頼性等を担保するために、学校として組織的・計画的に進めることが大切です。



例えば、以下のようなことが考えられます。

- ・評価のために集める資料や評価方法等を学年ごとに明確にすること
- ・評価の視点等について共通理解を図ること
- ・評価に関する実践事例を蓄積し共有すること

道徳科の年間指導計画について

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P71～P75
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P69～P73

年間指導計画とは、道徳科の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、各教科等との関連を考慮しながら、児童生徒の発達段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画です。



道徳科の年間指導計画を作成する際には、各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げることとなります。

道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければなりません。道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要です。

〈年間指導計画の例〉

第6学年道徳科年間指導計画（主題等一覧表）

学年の重点目標
 ○生命の尊さを理解し、かけがえない生命を精一杯生きようとする態度を育てる。
 ○自らの行動に責任をもって自主的に行動しようとする態度を育てる。
 ○相手の立場を尊重し、多様な見方や考え方を理解し、寛容な心を育てる。

月	主題名	内容項目	教材名	備考	各教科等との関連	人権教育との関連
	弱さを乗り越えて	A 善悪の判断、自律、自由と責任	分かっているのに（出典 奈良県教育委員会 道徳教育読み物資料集）		体育（表現運動）	
9月	世界の平和のために	C 国際理解、国際親善	義足の聖火ランナー（出典 東京書籍 明日をめざして）		国語（平和のとりでを築く）社会（国力の充実をめざす日本と国際社会）	
	かけがえない命	D 生命の尊さ	1NOR1～祈り～（奈良県教育委員会 なかまとともに）		国語（やまなし）理科（ヒトや動物の体）	
	自立的な生活	A 善悪の判断、自律、自由と責任	学旅行の夜（出典 東京書籍 明日をめざして）		国語（時計の時間と心の時間）	
10月	礼儀は心のあらわれ	B 礼儀	礼儀の心（出典 東京書籍 明日をめざして）		国語（生活の中の言葉）社会（今に伝わる室町の文化と人々の暮らし）	
	日本人として	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	新緑の国（出典 東京書籍 明日をめざして）		国語（イーハトーブの夢）音楽（越天楽今様）	
	生命の尊重	D 生命の尊さ				

道徳科の授業と関連する各教科等や人権教育など様々な教育活動との関連を示すことで、道徳科の指導が道徳教育の要として機能するよう工夫することが大切です。

道徳の授業を実施したときの課題等を備考欄に記入するなどして、年間指導計画の改善のための資料を残していきましょう。

年間指導計画の様式には、様々なものが考えられますので、各学校において活用しやすい様式を工夫しましょう。例えば、上図に示した主題等一覧表は、一年間の指導の流れが一目でわかります。その場合、各時間のねらいや学習指導過程などを含む指導の概要が分かる右図のようなものを加えることが求められます。

〈年間指導計画の内容の例〉

- 指導の時期 □主題名
- ねらい □教材
- 主題構成の理由
- 学習指導過程と指導の方法
- 他の教育活動等における道徳教育との関連
- その他（保護者や地域の方の参加・協力の計画等）



年間指導計画に基づく授業を一層効果的に行うためには、年間指導計画の評価と改善を行うことが大切です。



第6学年 年間指導計画

実施日	○月 ○日
主題名	弱さを乗り越えて A 善悪の判断、自律、自由と責任
ねらい	他者や自分自身に対する責任を果たすことの大切さに気づき、自律的で責任のある行動を取ろうとする実践意欲を高める。
教材名 出典	分かっているのに 道徳教育「読み物資料集」県教育委員会
主題構成の理由	軽い気持ちで他者を中傷する書き込みをネット掲示板に行った友達を止められない主人公の心の弱さと、母の励ましでその弱さを克服していく主人公の心の動きを中心に話し合うことで、自分自身の行いに対する責任を果たすことの大切さに気付かせたい。
学習指導過程（指導の方法）	○何も言えず、じっと画面を見つめながら、ミュキはどんなことを考えていたでしょう。 ○母の言葉と笑顔から、ミュキは母がどんな思いを自分に伝えようとしていると感じたでしょう。 ○マキの手をつかんで「やっぱり大丈夫」と言ったとき、ミュキはどんなことを思っていたでしょう。（ワークシートに自分の考えをまとめ、全体で話し合う。） ○ミュキが果たした責任は、誰に対してのものだと考えますか。（グループで話し合い、全体で交流する。）
授業についての児童アンケート	あてはまる（人） ややあてはまる（人） あまりあてはまらない（人） あてはまらない（人）
友達の発言を参考にし、考えを深めることができた	
自分の体験や経験を基に考えた	
成果と課題	

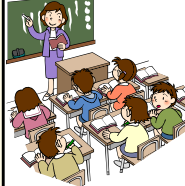
道徳科の目標

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P16～P20
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P13～P18



道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（物事を広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める**学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第1 目標 より（ ）内は中学校】

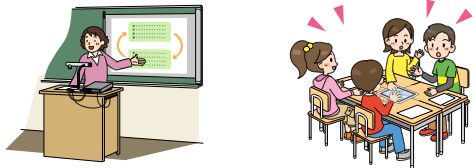


道徳科は、児童生徒一人一人が、学習のねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間です。

道徳科における学習

道徳的諸価値について理解する

道徳的価値の意義や大切さを理解するとともに、道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気づき、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めることです。



価値理解：道徳的価値を人間としてよりよく生きる上で大切なことだと理解すること

人間理解：道徳的価値は大切であっても実現することが難しい人間の弱さなどを理解すること

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりするときの感じ方、考え方は多様であることを理解すること

自己を見つめる

これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方を想起し確認することを通して道徳的価値に関わる自分の現状を認識し、道徳的価値についての考えを深めることです。

物事を多面的・多角的に考える

児童生徒が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から多面的・多角的に考えることです。

自己の生き方についての考えを深める

道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことです。

これらの学習を通して

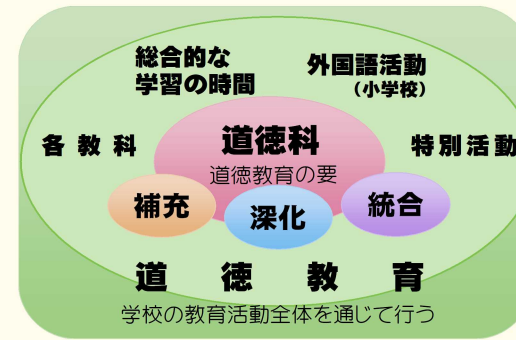
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

道徳教育と道徳科

平成27年3月27日の小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部改正により、道徳教育に関わる規定が、学習指導要領「第1章 総則」に示され、道徳科が学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」に既に位置付けられています。道徳教育は「学校の教育活動全体を通して行われるもの」であり、道徳科が各教科等で行われる道徳教育の要として位置付けられることは、今までと変わりません。

道徳教育と道徳科の関係



今回の学習指導要領の改訂でも、左図で示すとおり、道徳教育が道徳性を養うこと、その要となるものが道徳の授業であることはこれまでと変わりません。改訂によって改善されること、引き継がれることを確認し、学校全体で取組を進めていきましょう。



道徳教育は、道徳科はもとより、各教科等のそれぞれの特質に応じて、適切に行います。その中で、道徳科は各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり（補充）、深めたり（深化）、相互の関連を考えて発展させたり統合させたり（統合）する役割を果たすこととなります。

検定済教科書の導入

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、検定済教科書が道徳の授業の主たる教材になります。補助教材として、県教育委員会が作成した教材や文部科学省が作成した教材なども活用することができます。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P100～P104
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P102～P106

評価について

道徳科では、数値による評価ではなく、教員が児童生徒の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童生徒が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価を目指しましょう。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P105～P114
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P107～P116

「考える道徳」、「議論する道徳」への転換

「考える道徳」、「議論する道徳」が目指す授業とは、子どもが道徳的価値及びそれに関わる事象を自分との関わりで主体的に考え、話し合いなどにより多様な感じ方や考え方と出会う中で自分の考えをより明らかにしていく授業です。他者との関わりの中で児童生徒が自らを振り返って成長を実感し、これからの課題を明確にし、新たな目標もてるように授業を構想していきましょう。

道徳教育推進に役立つWebページ

奈良県教育委員会 「使える」道徳教育指導資料 道徳教育読み物資料集、道徳教育「奈良県郷土資料」等 <http://www.pref.nara.jp/18608.htm>

奈良県教育委員会 まなびー奈良 道徳教育全体計画例、県主催の説明会等の配付資料等 <http://www.nps.ed.jp/ouen/NweFaq/16/>

文部科学省 道徳教育アーカイブ 授業映像、指導案、いじめに関する授業実践等 <http://doutoku.mext.go.jp>

文部科学省 私たちの道徳 掲載ページ 私たちの道徳及び指導資料、心のノート等 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/

